

須磨区社協だより

発行 社会福祉法人 神戸市須磨区社会福祉協議会

こすもす

2015年 春号

須磨区社会福祉協議会は、社会福祉法に基づき設立され、地域福祉の推進を図るために活動している民間組織です。「こすもす」は赤い羽根共同募金の配分金を活かし、発行しています。



Vol. 78

〒654-8570 須磨区大黒町4丁目1-1 須磨区役所内3階
TEL 731-4341(代表)内線312~315 FAX 733-2533

須磨区社協 検索 メール info@suma-shakyo.or.jp

あれから20年 今、すまは...

阪神・淡路大震災から20年。震災を機に「自分たちの地域のために」という想いで始められたことが、高齢者や児童の見守りのボランティア、災害対応などのさまざまな活動へとつながっています。「ボランティア元年」といわれた当手を振り返り、20年経った今、どう変化してきたのか、今どのような活動が行われているかを紹介します。

人と人との輪が広がりつながっていくまちへ!

(現:テレホンサポート事業)

元気アップコール須磨

災害復興公営住宅にお住まいの一人暮らし高齢者へのお話し相手やお元気確認を目的に平成9年に始まった「元気アップコール須磨」。現在は、災害復興公営住宅に限らず、一人暮らしの高齢者(希望者)も対象に継続され、事業の開始から今も継続して活動して頂いているボランティアの方もおられます。

ボランティアの方の声

- *「被災された高齢者の心を少しでもほぐしてあげられたら...」「自分自身もボランティアの方々にお世話になったので恩返しがしたくて...」「被災された方々の役に立ちたい!」という思いで活動を始めました。
- *事業の開始当時は被災時の生活に関するおはなしが中心でしたが、今は健康面や介護についての悩みや相談が増えているように感じます。内容は変わりつつも、一人暮らしの高齢者が抱える不安や悩みは変わらずあるのだと思います。



現在の活動の様子

友愛訪問ボランティア

地域の高齢者への訪問活動等を行う友愛訪問ボランティアは、昭和53年以降、組織化が進められてきました。震災後は仮設住宅や復興住宅等に入居された一人暮らしの高齢者も対象に見守り活動を行い、現在もさまざまな場所で閉じこもり防止やコミュニティづくりを推進しています。

震災当時を振り返って...

- *震災当時、住宅付近は火の海でした。エレベーターが止まり、足の不自由な高齢者の方は避難することもできず、当時の自治会長が安否確認をしながら、毎日食事を配布してもらえ、大変なご苦労でした。
- *友愛訪問の活動によって高齢者の方から「安心して生活ができるわ」と声をかけられます。見守りをさせていただき喜びに感謝!



お互いを想う気持ちが活動の源です

ボランティアグループ

須磨区ボランティアセンターは震災後の平成7年6月に設立され、スクールボランティアやデイサービスでの外出介助やイベント補助等、さまざまな活動をされているボランティアの皆さんとともに、これまでの月日歩んできました。今回は震災をきっかけに立ち上がったボランティアグループの代表の皆さんに、震災当時の様子や活動について語っていただきました。



当時を振り返るボランティアの皆さん

当時の様子や活動について

- *震災で人のぬくもりを感じ、自分自身の考え方も変わってボランティア精神を培うきっかけとなりました。
- *仮設住宅でのボランティア活動を長く続けていたこともあり、当時入居していた人の顔と名前は今でも覚えています。今でも地域で会った際には声をかけていただき、震災を機に育まれた人とのつながりが活動の力となっています。

震災の教訓を次世代に継承・発信!

さまざまな世代が、ともに災害発生時の対応を考えました。



缶に入った非常食



クロスロードでしっかり意見を言える子ども達



避難所の赤ちゃん用備蓄ミルクづくり体験中!

Yes/Noどちらかのカードを選択して意思表示するゲーム「クロスロード」を使って、災害発生時にどうしたらいいかを意見交換したり、経験者からの話を聞いたりしました。非常食の試食を通して、日頃の備えの大切さや家族や地域で話し合っておくことの重要性を感じるとともに、世代の違う人たちとの交流を深め、「地域ぐるみ」で「自助」「共助」について考える貴重な場となりました。

子ども安全マップ活動

まちの中の「安全と危険」を発見! 手づくり地図にまとめました。



コンビニの扉にあったマーク



中学生が大活躍!



地域の方へのインタビューの様子

防災・防犯、双方の視点でまちの中を探検し、自分の目で見たり、インタビューをして聞いたりしたこと、そこで感じたことを手づくり地図にしました。太田中学校の生徒8名が児童の活動サポートとして参加。災害時における中学生は、きっと頼もしい存在になってくれるでしょう!

大人も子どもも中高生も、さまざまな世代と一緒に地域の中で活動している姿が多くみられます。ともに過ごす時間の中で、温かい気持ちがふくらみ、互いを思いやる心がはぐくまれ、世代を超えた顔の見える関係が広がっていきます。このような経験の積み重ねによって、「すま♥だいすき!っ子」が育っていくことでしょう。

